

【平成29年度 第1回港区史編さん委員会 会議録 要旨】

平成29年11月15日(水)

午後6時30分～7時00分

区役所4階 庁議室

【委員】

出席者：井奥成彦委員長 田中秀司副委員長 岩淵令治委員 唐木富士子委員 小林元子委員
小林靖彦委員 野尻三重子委員 渡邊仁久委員 小柳津明委員 青木康平委員
堀二三雄委員 浦田幹男委員 北本治委員

欠席者：都倉武之委員

遅刻者：なし

【事務局】 総務部総務課

【傍聴者】 なし

次第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 区史編さん体制について
 - (2) スケジュール等の変更について
 - ・スケジュールについて
 - ・普及版について
 - ・基本方針について
 - (3) その他
 - ・区史の構成案について
 - ・編さん過程の公開及び区民との協働について
- 3 閉会

配布資料

- 資料1 港区史編さん体制図
- 資料2 監修者名簿
- 資料3 執筆者名簿
- 資料4 港区史編さん期間の変更について(案)
- 資料5 全体スケジュール(案)
- 資料6 普及版の変更について(案)
- 資料7 港区史編さん基本方針(案)
- 資料8 「(仮称)新・港区史」構成(案)
- 資料9 編さん過程の公開及び区民との協働～これまでの取組～
- 参考資料1 港区史編さん委員会設置要綱
- 参考資料2 委員名簿

議事要旨

1 開会

(開会の挨拶)

2 議題

(1) 区史編さん体制について

資料1～3について説明。

(2) スケジュール等の変更について

資料4～7について説明。

委員：全ての編が刊行されるのが、平成34年度末となると、当初に予定していた期間から3年長くなることになるが、区政70周年記念事業としての趣旨が損なわれてしまうのではないか。

事務局：本来であれば、区政70周年から間を空けずに刊行することが望ましいが、各編の内容を一から見直すということや、膨大な資料を整理していくことなど、昨年度の第1回委員会の段階から当初のスケジュールでは厳しいとの御意見をいただいていることに加え、監修者からも同様の御意見があり、期間を延ばさせていただく。他の自治体において新しく編さんする場合には、8～11年の期間をかけていることも鑑み、スケジュールを延期せざるを得ない状況である。

委員：区民からは区政70周年事業の一環として期待されているので、なるべく早く刊行するようにしてほしい。

委員：港区は一度も資料編を刊行したことがないため、より充実した内容にしたいと思う。

また、期間の延長について、区政70周年事業の趣旨が損なわれるという指摘はそのとおりだが、その一方でより良い区史を作ろうと執筆側としては意識しているため、是非十分に時間をもらいたい。

委員：最近刊行した葛飾区史はどのようなものか。

事務局：葛飾区は、葛飾区史と子ども葛飾区史の2冊を平成29年10月に刊行している。葛飾区史は、港区の「図説版」に近いと考える。

委員：区民がどのような形を望んでいるかということが大切である。学術的な意味もあるとは思いますが、何よりも区民に親しみやすい区史を目指し、両立してもらいたい。

委員長：「図説版」は、まさに区民に親しみやすいものを目指し、平成31年度末に刊行する。また、学術的にも評価されるような質の高い区史を作る方が、港区にとっても良いと考えるので、できるかぎり急いで編さんを進めるが、そのあたりもご理解いただきたい。

事務局：資料編については、平成34年度末に刊行予定で、港区史編さん事業についても平成34年度末で終了を予定している。資料編の着手時期については、監修者会議等で検討を進めていきたい。

委員：資料7の「基本方針」の仕様について確認したい。

「書籍版(本編)」は、以前はカラー刷りだったのがモノクロ刷りに変更されているのは何か理由があるのか。また、自然史・原始編の一部がA4なのは他がB5であることと比べると少し不整合ではないか。

事務局：まず、「書籍版(本編)」については、当初からモノクロ刷りで考えていたため、カラー刷り

というのは誤りである。

次に、自然史・原始編の一部がA4になることについては、特に自然史が地形図等の写真や図が多くなることから、A4サイズが望ましい。

委員：9分冊の中にA4のものが一冊入るということか。

事務局：後程説明するが、自然史についてのみA4・カラー刷りとなる。

委員長：自然史については、地図等を多く掲載することになり、大きく掲載しないと細かい部分が見ることができなくなってしまうため、A4サイズになる。

議題（1）及び（2）については、原案のとおり決定する。

（3）その他

資料8～9について説明。

委員：「100年の体験インタビュー」の実施はとてもいい取組だと思う。今回に限らず、もう少し何人かの方に伺って、口述歴史として公開するのはどうか。

事務局：当初、100歳の方を一度期に1か所に集めてインタビューすることも検討したが、ご年配の方に集まっていただくことが非常に困難だったことから、高齢者支援課とも連携し、このような取組となった。今後、麻布地区以外の方についても、手法を検討し、実施していきたいと考えている。

議題（3）については、原案のとおり決定する。

4 閉会